

福祉サービス第三者評価 評価結果

鳩の森愛の詩保育園

横浜市泉区弥生台 1-8

運営主体: 社会福祉法人 はとの会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2 ~ 4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ~ 6 ページ
分類別評価結果	7 ~ 17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18 ~ 26 ページ
利用者本人調査分析	25 ~ 27 ページ
事業者コメント	28 ~ 30 ページ

2008 年 5 月 14 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	鳩の森愛の詩保育園	
報告書作成日	2008年5月8日	評価に要した期間 4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:08年1月中旬 ~ 08年2月28日</p>	<p>職員会議で趣旨説明を行い、常勤・非常勤すべての職員各自が自己評価票に記入した。</p> <p>各自が記入した自己評価票を持ち寄り、全員が集まる会議で、意見交換をしながら1項目ずつ確認・合意をした。</p> <p>それをもとに、最終的に主任がまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:08年1月14日~08年1月28日</p>	<p>全園児の保護者(84家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関に宛てて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 08年3月19日 第2日 08年3月21日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:書類調査および園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:各クラス担任保育士6名、非常勤保育士1名、栄養士1名に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 08年3月19日 第2日 08年3月21日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、年長の園児を中心に、観察調査や昼食で子どもと同席した際に、会話の中で適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

鳩の森愛の詩保育園は、相鉄線「弥生台」駅から徒歩約2分の住宅地の中にあり、付近には公園や田んぼがあり、緑が多い地域です。園舎は鉄筋コンクリート2階建てで、園庭には斜面を利用した階段・丸太を並べた土手・滑り板や、アスレチック小屋・登り棒などがあり、子どもたちがさまざまな遊びができるようになっています。

定員は100名（0～5歳児）、平日の開園時間は7時から21時、土曜日は7時から18時です。社会福祉法人はとの会により運営されています。

当園は、1985年（昭和60年）3月、無認可保育園として開園したのが始まりで、1999年（平成11年）8月に認可保育園となりました。

はとの会は、通称「はと」と呼ばれる当園のほかに、当園から約300m離れた所にある鳩の森愛の詩あすなる保育園（あすなる）と、相鉄線「三ツ境」駅近辺の鳩の森愛の詩瀬谷保育園（せや）の2つの保育園、さらに小学生を対象とした「放課後キッズクラブ」（*）を2カ所（新橋小、いずみ野小）運営しています。

保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げています。この理念のもと、保育目標として、お互いを認め合う仲間になろう、しなやかな体をつくろう、感性をゆたかにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。

* 横浜市の子育て支援事業の1つ。小学生たちは午後7時まで自分の通う学校で過ごすことができる。

高く評価できる点

1、子どもたちは、自由に園生活を楽しみながら、さまざまなことを学んでいます。

子どもたちが好きなことをして遊ぶ時間が十分に確保されています。例えば、室内での一斉活動としての絵描きの際に、クラス全体では他の活動が始まっても、絵が完成するまで描いている子どもや、次々と絵に取り組み続けている子どももいます。園庭での遊びでは、安全に配慮して、幼児クラスと乳児クラスが使う時間を分け、思いっきり遊び込めるようにしています。晴れた日は、ほとんどのクラスが散歩に出かけます。途中で出会った近隣の人々と元気にあいさつを交わしたり、電車が通れば手を振ったりし、車掌さんも手を振って応えてくれます。公園では、ブランコ、鬼ごっこ、木登り、草摘みなど、それぞれ好きなことをして遊んでいます。保育者は、危険のないように見守りながら、遊びの仲間に入っています。保育上特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもも、ごく自然に他の子どもたちと一緒に遊んでいます。

また、子どもたちが食への関心を持つようにさまざまな取り組みを行っています。2歳児以上は、クッキング活動としておやつなどを自分たちで作って食べることをして、幼児クラスになると、プランターで、キュウリ・ピーマン・ナスなど希望の野菜を自分たちで育て、調理して食べています。さらに、4・5歳児は、味噌作り、うどん作り、ぬか漬け作りなども経験しています。給食時には、年齢に応じた当番活動で、おかずの盛り付け・配膳・片付けなどを行うほか、5歳児クラスではお米係が、朝、米をとき炊飯器にセットしています。

異年齢の子ども同士の関わりとして、幼児クラスは毎朝の集いで、一緒に歌を歌ったり踊ったりしています。子どもたちは、みんなで声を合わせて歌うことを楽しんでいます。保育者も一緒に、きれいな大きな声で楽しく歌っています。また、毎月のお楽しみバイキングも、幼児クラス合同で行っています。さら

に、5歳児は午睡をしなくなる頃から、午睡後の乳児クラスに手伝いに行き、乳児と一緒におやつを食べたり、遊んだりしています。

2、職員の研修が充実しています。

年間研修計画を作成し、法人が運営する他の2つの保育園（あすなる、せや）の職員も含めた合同研修を定期的に行っているほか、外部の研修会などへも積極的に参加しています。また、外部の保育研究会や大会で、現場の職員が実践報告・事例報告などをする機会も多く、職員の励みとなっています。

研修後は、研修報告書を回覧したり、職員会議で発表したりすることで他の職員と情報を共有しています。また、研修などを受けた感想や、日常の保育にどのように活かすかなどの報告を園だよりに掲載、さらに年1回、冊子にまとめて父母に配布しています。

また、法人内3保育園の同年齢児クラスの担当保育者が、お互いに他の保育園のクラスを2~3日担当し、それぞれの園の工夫事例等を学ぶ機会を作っています。さらに、法人外の保育園に行き、保育の現場実践を経験したりすることも行っています。

さらに、法人3園合同研修としての、鬼剣舞、荒馬踊り、合唱などの講習、沖縄平和学習の旅、無言館平和学習の旅などに参加した職員は、自らの感じたことをさまざまな形で子どもたちに伝え、感性を豊かにすることに活かしています。

3、父母との密接な関係が築かれています。

「共育て共育ち」の理念を共有するために、1年に1回は、全園児の家庭を訪問するように努めているほか、年度後半には、幼児組に進級する2歳児・年長組になる4歳児の父母と個別面談を行っています。また、父母の希望があれば、いつでも個別面談や相談に応じています。

また、父母の会が結成されていて、父母は、「役員会」「実行委員会」（“おたよりプロジェクト”“運動会”“バザー”“環境整備”“記念合唱団運営”“和太鼓なかま「結」”“保育体制”）のいずれかに必ず参加し、活発に活動しています。また、これらの実行委員会には職員も2、3人ずつ参加しています。さらに、父親懇親会やクラスごとの独自の行事も行われ、園長・主任をはじめ職員も時に応じて参加しています。

父母の会役員会には、園長・主任が出席し、さまざまな意見交換をするほか、役員には父母からの要望・苦情を受け付ける窓口の役割をしてもらうなど、園とのコミュニケーションが十分に図られるようにしています。

4、地域との交流に力を入れています。

子どもたちは、日々の散歩などのとき、地域の人々とあいさつを交わしたり、クッキングの材料を近隣のスーパーで買ったりしているほか、地域の人々と触れ合う機会を多く持っています。例えば、園の焼き芋パーティのときに近隣の福祉施設の利用者が来園したり、月1回のお楽しみ会に「あそぼう会」（「あすなる保育園」と共同で実施している、地域で子育てをしている親子を対象とした育児支援事業）に参加している親子が来たりしています。また、毎年、自治会の夏祭り・秋祭りなどの際に、子どもたちが太鼓の演奏を披露したり、近くの小学校のゲーム大会に招待されたり、法人が運営するキッズクラブの学童と交流をしたりしています。さらに、5歳児クラスの子どもたちは、職員や地域の人々とともに赤い羽根共同募金の街頭での呼びかけに参加しています。

独自に取り組んでいる点

園生活の思い出を、子どもたちが持てるようにしています。

卒園に際し、一人ひとりの子どもに対し「卒園のうた」を作り、贈っています。その子どもの入園以来

の思い出やエピソードなどを綴った詩を、全職員が関わって作り、外部の専門家に曲をつけてもらっています。卒園式では、卒園児とともに、職員・在園児・父母なども共に歌って祝います。

また、一人ひとりの子どもの園生活の様子などの写真を貼ったアルバムを作り、進級時・卒園時に本人に渡しています。

工夫が望まれる点

1、マニュアル内容の充実

さまざまなマニュアルが作成されていますが、内容が不十分であったり、制定や見直しの日付がなかったりするものが見受けられます。実際の行動にすぐに結びつけることができるように、内容を検討し、充実させることが望まれます。検討にあたっては、現在、実際に行っていることをベースにするとともに、法人内の他の2つの保育園（「あすなる」「せや」）で行われている良い事例なども参考にすることで、より良い保育につながるマニュアルとなることが期待されます。

2、新入園児の父母への説明

父母の会の活動が活発に行われていますが、家族アンケートには、「どの行事にも職員も一緒に取り組んでくれる」「子どもたちも楽しんでいる」という声がある一方で、低年齢児の父母などからは「行事が多すぎる」「負担が大きい」などの意見も見られます。父母の会とも継続的に連携しながら、入園前の見学のと看や入園説明会などで、父母の会活動の内容や意義についてより丁寧な説明をすることが望まれます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の理念は、「共育ち共育て」として“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げ、子どもを尊重したものになっています。
- ◇ 年度初めの法人合同学習会で、「こどもの権利条約」「個人情報保護法」の解説を、定期的に行っています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育目標は、お互いを認め合う仲間となろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。
- ◇ 子どもたちが好きなことをして遊ぶ時間が十分に確保されています。
- ◇ 子どもたちが食への関心を持つように、さまざまな取り組みをしています。
- ◇ 卒園に際し、一人ひとりの子どもに対し「卒園のうた」を作り、贈っています。その子どもの入園以来の思い出やエピソードなどを綴った詩を、全職員が関わって作り、外部の専門家に曲をつけてもらっています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案を立てています。
- ◇ 0歳児には、個別指導計画を作成しています。1～5歳児で、特に配慮を要する子どもに対しても個別支援計画を作成しています。
- ◇ 保育上、特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。
- ◇ 健康管理・感染症対策・衛生管理・安全管理に関するマニュアルを作成しています。
- ◇ 苦情の受付・解決に関するマニュアルを作成しています。苦情受付担当者・苦情解決責任者、第三者委員を定めています。
- ◇ マニュアルは作成されていますが、内容が不十分なものが見受けられるので、充実させることが望まれます。
- ◇ 1年に1回は、全園児の家庭を訪問するように努めているほか、年度後半には、幼児クラスに進級する2歳児・年長クラスになる4歳児の父母と個別面談を行っています。
- ◇ 父母の会があり、役員会のほか、各種実行委員会（おたよりプロジェクト、運動会、バザー、環境整備、記念合唱団運営、和太鼓なかま“結”、保育体制）があり、父母は必ずいずれかに参加して活発に活動し、随時園とのコミュニケーションがとられています。
- ◇ 入園前の父母に対して、父母の会活動の内容や意義についてより丁寧な説明をすることが望まれます。

4、地域との交流・連携

- ◇ 子どもたちは、地域の人々と触れ合う機会を多く持っています。
- ◇ 地域新聞「鳩の森っ子」を発行し、地域住民に情報提供しています。
- ◇ 園のパンフレットや法人のホームページで、さまざまな情報を提供しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理などを、年度初めの法人全体学習会で説明し、周知しています。
- ◇ 法人内で、3園園長・主任会議を設け、運営面での重要な課題について、対応の方向性などを話し合っています。

◇ 法人として、中期計画を定めています。

6、職員の資質向上の促進

◇ 人材育成計画があります。

◇ 園長が年2回職員と面談を行い、各自の目標設定とその結果について話し合っています。

◇ 法人が運営する他の2つの保育園の職員も含めた合同研修が定期的に行われているほか、外部の研修会などへも積極的に参加しています。また、外部の保育研究会や大会で、実践報告・事例報告などをする機会も多く、職員の励みとなっています。

◇ 研修後は、研修報告書を回覧したり、職員会議で発表したりすることで他の職員と情報を共有しています。さらに、研修などを受けた感想や、日常の保育にどのように活かすかなどの報告を「おたより」（園だより）に載せるほか、年1回、冊子にまとめて父母に配布しています。

◇ 大学の保育科から、学生に「保育園の現場はどのようなことを行っているか」を紹介してくれるように、毎年依頼されています。法人の3園で協力して5~6人がグループで大学に出向き、寸劇などを交えて保育園の紹介をしています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎあい、支え合い、成長し合うこと”を掲げていて、子どもを尊重したものとなっています。 ・ 保育目標として、お互いを認め合う仲間となろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。 ・ 保育計画は、保育の方針・地域の状況・父母の就労状況などを考慮して作成しています。その内容は、年度初めのクラス懇談会で保護者に伝えています。また、毎月の「おたより」（園だより）に、その月の“保育のねらい”を掲載しています。 ・ 年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。週案は、事務室の脇に掲示し、父母に周知しています。 ・ 散歩の行き先、雨の日の活動、朝夕の室内遊びのときの机や仕切りの配置など、子どもたちの意見を取り入れ、子どもの自主性・主体性を尊重し、柔軟に対応しています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会后、入園式までの間に父母との面接を実施しています。その際に子どもの観察も行っています。 ・ 入園説明会で児童票など必要書類のほかに、気がかりなことや配慮してほしいことなどを自由に書き込める用紙も配布しています。これらの書類を参考にしながら、面接を行い、得られた情報は記録し、日々の保育に活かしています。 ・ 導入保育（短縮保育）はできるだけ取り入れています。日程・時間などは、新入園児の家庭と個別に話し合い、実状に合わせて決定しています。 ・ 在園児への配慮から、4月の進級時には、前年度担任のうちできるだけ1人は持ち上がりになるようにしています。また、進級後の部屋に、以前の部屋で遊んでいた見慣れた遊具をセットするなどの工夫もしています。 ・ クラス懇談会や父母の役員会で、父母からの保育に対する要望などを把握し、指導計画に反映させています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・園の屋内・外とも、常に清潔に保たれています。
- ・どの保育室も、南側の園庭やテラスに面していて、陽光を十分に取り入れています。夏季などには、可動式の日除けをテラスの上に張り出し、直射日光を避けるようにしています。
- ・0歳児室には、沐浴設備があります。
- ・シャワーは、屋外に1ヶ所設けています。
- ・可動式のついたてや遊具柵を仕切りとし、生活や遊びの場面に合わせて、保育室の使い方を工夫しています。
- ・園庭には、斜面を利用した階段・丸太を並べた土手・滑り板や、アスレチック小屋・登り棒などを設置し、子どもたちがさまざまな遊びができるように工夫しています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0歳児には、全員に対して個別指導計画を作成しています。1歳児に対する個別指導計画は、発達状況や月齢などを考慮して、必要があれば作成するというのが園の方針であり、必ずしも全員に対してではありません。全員に対し作成することが望まれます。
- ・1～5歳児で、特に配慮を要する子どもに対しては、個別指導計画を作成しています。
- ・1年に1回は、全園児の家庭を訪問するように努めています。
- ・年度後半期に、幼児クラスに進級する2歳児、年長クラスになる4歳児の父母と、個別面談を行っています。
- ・子ども一人ひとりの個人別ファイルを作り、児童票、経過記録、健康チェック票、面談記録などをまとめて保管しています。
- ・一人ひとりの子どもの園生活の様子を撮った写真を、毎月数枚ずつ個人別アルバムに貼り、進級時・卒園時に本人へ渡しています。
- ・卒園時には、一人ひとりに対し「卒園のうた」を作って贈っています。全職員が関わって、その子どもの入園以来の思い出やエピソードなどを交えた詩を作り、外部の専門家が曲をつけています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。
- ・法人内の勉強会で、集団になじめない子どもなどへの対応について、外部の臨床心理士を講師に招いて指導や助言を得ています。
- ・特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもについて、父母の同意を得て、戸塚療育センターや泉区福祉保健センターなどから助言や情報を得ています。また、子どもの状況に応じて、他年齢児のクラスに編入することもあり、子どものよりよい発達を目指して、柔軟に個別対応を行っています。
- ・外部の障がい児保育研修に多数の保育者が参加しています。また、法人内合同研修でも障がい児保育について取り上げています。
- ・アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切に対応しています。
- ・代替食は、見た目はなるべく普通食と変わらないように、材料や調理の工夫をしています。
- ・食物アレルギーのある子どもの名前を書いた個別のトレーに代替食を置き、間違いがないようにしています。また、保育室に貼ってあ

	<p>る献立表には、アレルギーに関連する食材を含む料理やおやつに色をつけ、保育者の注意を促すようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国につながる子どもなどに対し、文化や生活習慣の違いなどを認め、尊重しています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情の受付・解決に関するマニュアルを作成しています。 ・ 第三者委員に直接苦情を申し立てできる仕組みがあり、第三者委員（3人）の名前や連絡先を父母に周知しています。 ・ 父母からの要望・苦情を受け付ける「提案委員会ポスト（意見箱）」を、玄関に設置しています。また、日々の送り迎えのときなど、いつでも要望・苦情を受け付ける姿勢があります。 ・ 泉区福祉保健センター、児童相談所、療育センターなど、外部の機関との連携体制ができています。 ・ 保育に関するトラブルがあった場合、素早く文書化し、状況、原因、課題を把握して、今後の改善事項を父母に口頭および文書で伝えています。また、この文書を全職員に回覧し、情報の共有化を図っています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="600 257 1468 427">・ 年齢に応じたおもちゃや絵本などが用意されています。5歳児クラスは、1年を通して挑戦する遊び（今年はコマ回し）を子どもたちの希望で決め、コマと回し綱は十分な数をそろえて、いつでも取り出せる場所に置いています。 <li data-bbox="600 439 1468 651">・ 自由遊びの時間は十分にあります。さらに、一斉保育の場合でも、一人ひとりが自由に取り組めるように配慮しています。例えば、1つの作品に取り組むとき、時間で一斉に終りにすることはなく、完成した子どもは次の遊びに移り、続けている子どもはじっくり続けられるように配慮しています。 <li data-bbox="600 663 1468 965">・ 乳児クラスでは、子どもたちの好きな絵本の中の会話が、保育者と子どもたちのやり取り、掛け合いの中で、自分たちのバージョンに発展して楽しむことがよくあります。幼児クラスでは子どもたちの発想を保育者が受け止めて、仕掛けを作り、発想がさらに発展するように働きかけています。4歳児クラスでは絵本に出てきた竜が実在するという発想に発展し、5歳児クラスでは織姫様との交流ポストを作って、夏に会いに行く計画を立てました。 <li data-bbox="600 976 1468 1146">・ 幼児クラスは子どもたちの希望のものを栽培しています。例えば3歳児はキュウリ、ピーマン、ナスなどを育て、みんなで水をやり、収穫し、それをみんなで調理しました。ピーマンは甘辛炒めにし、子どもたち全員が喜んで食べました。 <li data-bbox="600 1158 1468 1415">・ 幼児は全員自分の道具かごを持ち、クレヨンやのりなどを入れています。自由画帳も持っていて、描き終わるとすぐ補充してもらえるようになっています。この自由画帳は子どもたちが部屋での自由遊びの時間や昼寝前などに出してきて、楽しんでいます。5歳児の部屋には粘土、紙、テープなどの素材の入った引き出しがあって、自由に使えるようになっています。 <li data-bbox="600 1426 1468 1639">・ 異年齢の子ども同士の関わりとしては、幼児は登園時に園庭で一緒に遊んでいます。また、毎日朝の集会で、歌や踊りを一緒にやり、毎月のお楽しみバイキングの日も一緒に楽しみます。5歳児クラスは午睡がなくなる秋頃から、乳児クラスに手伝いに行く計画を立て、割り当て表を作って午睡後の乳児と交流しています。 <li data-bbox="600 1650 1468 1942">・ 園の敷地は斜面になっていて、園庭はその地形を利用し、斜面は階段になっていたり、丸太が積まれていたり、滑り板になっていたりしています。大きなアスレチックの家も斜面に建てられ、柱の代わりに登り棒などが付けられています。子どもたちは0歳児のときから斜面や階段の上り下りに挑戦し、年齢に応じて斜面やアスレチックの家で遊び、足腰を鍛えています。そのため、体の動きがしなやかで、大きなケガが少なくなっています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 食事に関しては、月1回のお楽しみバイキングでは、テーブルクロスで演出し、盛り付けも大皿で華やかにして、雰囲気をつくるなど、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしています。また、夕食は週に1回「お楽しみメニュー」の日を設け、その日は夕食でも調理担当職員の手作りのデザートを出して、子どもたちに喜ばれています。
- ・ 保育の中で、作って食べる（クッキング）活動を2歳児から取り入れています。4、5歳児は味噌作り、うどん作り、ぬか漬け作りをして、食品を最初の材料から作って食べる経験をしています。5歳児クラスではお米係もいて、朝、お米をとぎ、炊飯器にセットしています。また、園外保育で瀬戸物の茶碗を買いに行き、一人ひとり自分で選んだ茶碗でご飯を食べます。これらのさまざまな活動から、子どもたちの食への関心や食べる意欲が高められています。
- ・ 食材は全て国産で、無農薬野菜、減農薬の胚芽米を使用しています。食器は安全性や温かみのあるものを選び、木の器を取り寄せています。
- ・ 調理担当職員は、保育者と連携して子どもの嗜好、残食を把握し、新メニューを考えたり、盛り付けや切り方などの工夫をしたりしています。
- ・ 「給食室だより」で毎月、その季節に応じた食の情報を保護者へ提供し、子どもたちに大人気のメニューや季節のメニューのレシピも紹介しています。
- ・ 眠れない子ども、眠くない子どもに対しては、父母と相談してその子どもの体力に応じて、対応しています。担任の横で、静かに絵を描いているような場合もあります。
- ・ トイレトレーニングは基本的には「何歳になったら」「何歳までに」という考え方はしていません。一人ひとりに合わせて父母と連携をとり、せかさないようにして取り組んでいます。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理マニュアル、感染症対策マニュアルがあります。
- ・ 子ども個人別のファイルの中に児童健康台帳があり、一人ひとりの健康診断、歯科健診の結果が記入され、既往歴なども書かれています。必要に応じて関係する職員に対応を周知しています。
- ・ 食後の歯磨きは3歳児の前半まで保育者が仕上げ磨きをし、4、5歳児は自主的に行っています。歯磨き指導は保育者が研修を受けて行っています。
- ・ 法人運営の3園共通のしおりに健康管理と感染症の項目があり、感染症にかかった場合の登園の目安や登園許可書についても明記しています。入園説明会や父母懇談会などでも父母に説明しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルがあり、法人全体の研修でマニュアルの内容を共有しています。
- ・ マニュアルには保育室、トイレ、廊下、床、遊具、寝具、テーブル、タオル、ぞうきん、砂場などの消毒方法についても明記しています。それに基づいて清掃を行い、屋内・外とも清潔に保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・安全管理について、「園児安全についてのマニュアル」「はとの会地震災害対応マニュアル」に詳しい対応が書かれていて、法人の研修で周知を図っています。
- ・避難訓練・消火訓練は、少人数保育の日や子どもの少ない時間帯も想定して、さまざまな時間帯、曜日に行い、避難場所まで誘導する訓練も行っています。不審者の侵入を想定した訓練も行っています。
- ・子どものケガについては、事故対応マニュアルで判断基準を14項目にわたって詳しく示し、対応も具体的に示しています。例えば、首から上のケガは必ず父母に連絡して医者に連れて行きます。
- ・園の入口には、電子ロックの装置をつけ、登降園のピーク時以外はロックしています。

- 3 人権の尊重



- ・保育者は全員、せかしたり強制したりせず、静かな声でおだやかに子どもたちに接しています。例えば、体操をしない子どもに対して、手を取って誘ってみますが、誘いに乗らない子どもに強制することはありません。また、「ダメ」「やめなさい」ではなく「してみようか」、「急いで」ではなく「しよう」と、肯定的な語りかけをしています。
- ・保育室内に、人の視線を気にせずに過ごせる場所を確保するためにも、必要に応じて備品などを移動させ、コーナーを作っています。また保育室によっては、ついたてなどが常時置いてあります。
- ・非常勤を含めた全職員が、個人情報の取り扱いについての研修を受けています。また、不用意に地域や電車・バス等の中で、園内の話をしないように、職員会議で度々話題にし、啓蒙しています。
- ・虐待が明白になった場合や疑わしい場合に備えて、児童相談所や区福祉保健センターなどとの連携体制ができています。
- ・順番、グループ分け、整列などで、男子・女子で区別することはありません。

- 4 保護者との交流・連携



- ・ 父母が保育の理念・基本方針・目標等を理解できるように、入園説明会や懇談会などで説明し、園の「おたより」でも月ごとの保育のねらいを伝えています。そして行事などのたびに、複数の父母に順に感想を「おたより」に書いてもらい、父母の保育方針等に対する理解度を把握しています。
- ・ 年度後半期に、幼児クラスに進級する2歳児、年長クラスとなる4歳児の父母と個別面談を行っています。また、1年に1回、全園児の家庭を訪問するように努めています。
- ・ 父母からの相談は、人に聞かれない内容の場合は、土曜日に応じたり、夕方の空いた保育室を使用したりします。場合によっては、近くにある同じ法人運営の園の予備室を使うこともあります。相談内容は個別の児童票に記録しています。
- ・ 園の「おたより」は、父母の会の“おたよりプロジェクト”が毎月発行しています。写真を多く取り込んだ各クラスのおたよりのほか、園全体の様子、給食室だより、ほけんだより、父母の行事感想文、園児の家庭紹介、お勧め絵本、職員の研修報告など、多くの内容が盛り込まれています。
- ・ 積極的に保育参加を受け入れ、平日はいつでも受け付けています。行事やクッキングの活動のときなどに、手伝いも兼ねて参加を呼びかけることもあります。毎月行っているお楽しみバイキングの日に参加する父母も多くいます。
- ・ 父母の会組織には、役員会のほか、各種実行委員会（おたよりプロジェクト、バザー、運動会、環境整備、記念合唱団運営、和太鼓なかま“結”、保育体制）があり、父母は必ずいずれかに参加し、随時園とのコミュニケーションがとられています。クラス懇談会にも父母の会役員が出席し、父母の要望や希望などを汲み上げています。父母の会の各種実行委員会には、職員がそれぞれ2、3人参加して、連携しています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援活動「あそぼう会」を、法人が運営する「あすなる保育園」と共同で月2回行っています。毎回近くの公園等での遊びに50組ほどの親子の参加があり、その際に保育園に対するニーズを把握しています。 ・ 地域子育て支援サービスとして、「あそぼう会」のほかに、一時保育、園庭開放を行っています。一時保育は1ヶ月延べ30人ほどの利用者があり、園庭開放は毎週土曜日に行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への情報提供として、地域新聞「鳩の森っ子」を2,000部発行して地域に配っています。また、園の「おたより」を地域の病院、銀行など主要な所に250部配布しています。 ・ 区の福祉保健センターや療育センターなど、関係機関をリスト化して職員が共有し、関係機関とは日常的に連携しています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の焼き芋パーティに近隣の福祉施設の利用者を招待しています。また、「あそぼう会」に来ている親子を、月1回のおたのしみ会に招待しています。 ・近隣との友好的な関係を築く取り組みとして、「ホテルの会」の一員として、6月には蛍を守るパトロールに職員が参加しています。また、赤い羽根共同募金の街頭での呼びかけには、職員とともに、5歳児クラスの子どもたちも一緒に参加しています。 ・子どもたちは近くの公園のほか、1駅離れた図書館まで歩いて行き、利用しています。散歩では日常的に行き交う人たちとあいさつを交わしています。また、クッキングなどに必要なものを、近隣のスーパーで買うこともあります。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報は、パンフレットや「おたより」のほか、ホームページでも提供しています。それを見て、「あそぼう会」に参加する親子や、一時保育を希望してくる人もいます。さらに、講演依頼や見学希望もあります。 ・園への問い合わせには、随時、園長か主任が対応しています。不在のときは折り返し連絡をしています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生・ボランティア受け入れマニュアルがあり、園長及び主任が受け入れ担当をしています。ボランティアや実習生の来園日には、玄関に名前を掲示しています。 ・職業体験学習で来た中学生や実習が終わった保育科の学生に、その後も、機会を見てボランティアとして来てくれるように呼びかけています。それに応じて、再来園する学生が多くいます。 ・ボランティアとは話し合いを行い、意見を聞いています。 ・実習のプログラムは、大学などからの依頼を受けて、目的に沿うように工夫しています。実習に入る前に主任が、実習生向けのしおりを使ってオリエンテーションをしています。 ・実習生とは、毎日、実習生が入ったクラスの担当職員が意見交換をし、実習終了時には反省会を持っています。3週間以上の長い実習の場合は、中間報告会も行っています。 ・大学の保育科から、実習前のオリエンテーションとして、保育科の学生に、「保育園の現場はどのようなことを行っているか」を紹介してくれるように、毎年依頼されています。3園で協力して5~6人がグループで大学に出向き、寸劇などを交えて保育園の紹介をしています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成の計画を作成しています。 ・ 職員は、毎年度末に、自己評価票に課題達成度の評価と次年度の設定課題を記入し、園長と面談をし、さらに年度途中で経過報告・面談をしています。 ・ 法人が運営する他の2つの保育園の職員も含めた合同研修・学習会などが定期的に行われ、非常勤職員も参加しています。外部の専門家によるセミナー・講演などのほか、鬼剣舞・荒馬踊り・合唱などの講習や、沖縄平和学習の旅・無言館平和学習の旅などがあります。 ・ 外部の研修会などにも、積極的に参加しています。 ・ 研修結果は、報告書により、職員全員が共有できるようにしています。さらに、研修を受けて気が付いたこと、日常の保育にどのように活かすかなどを、「おたより」に掲載するほか、年1回、冊子にまとめて父母に配布しています。 ・ 非常勤職員も園内外の研修に参加しているほか、職員会議・カリキュラム会議へも出席しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人外部での現場研修として、他法人の保育園で保育に当たる機会を設けています。また、法人内3保育園の同年齢児クラスの担当保育者が、相互に入れ替わって保育に入り、それぞれの園の工夫事例などを学んでいます。 ・ 外部から専門の講師を招いて、園内、法人内で学習会を行っています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成計画中に、経験・能力や習熟度に応じた期待水準を明文化しています。 ・ 外部の保育研究会や大会で、「実践報告」「事例報告」などを発表する機会があり、職員のやりがいを高めています。 ・ 園長は、年2回の職員との面談時に、職員の満足度・要望などを把握しています。その後、園長は、一人ひとりに評価や期待することを書いたメッセージを渡しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者として守るべき法・規範・倫理などを、年度初めの法人全体学習会で説明し、周知しています。また職員は、「子どもの権利条約」「個人情報保護法」の解説を外部講師から受けています。 ・ 他園でのさまざまな事例を会議などで取り上げ、職員と議論し、啓発しています。 ・ ゴミ分別化に取り組んでいて、各保育室にも分別用のボックスを設けています。また、幼児クラスの朝の集まりの際に、子どもたちに、自分の家の近辺では、「今日は何ゴミの収集日か」を答えてもらうなど、関心を持たせるようにしています。 ・ バザー・こどもまつりなどの園の行事の際は、食器・エコバッグ持ちよりでの参加を各家庭に呼びかけています。 ・ 食材はすべて国産で、無農薬野菜、減農薬の胚芽米を使用するなど、安全性に配慮するとともに、環境への負荷低減に寄与しています。 ・ 環境への考え方、取り組みを、運営方針などに明文化するには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念を園の入口に掲示しているほか、園のパンフレットにも記載しています。 ・ 法人全体学習会で、理念や保育目標などの説明をし、職員の理解を促しています。また、理念や保育目標などを書いたしおりを、全職員に渡しています。 ・ 園長・主任は、父母の会役員会に出席し、父母と意見交換をしています。 ・ 主任は各クラスの父母懇談会に参加して、クラスの雰囲気や父母の様子を把握し、個々の職員に対し、適切な助言や指導を行っています。 ・ 主任は、若い職員などが良好な状態で仕事に取り組めるように、積極的に声かけをしたり、相談にのったりしています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として、中期計画を定めています。 ・ 法人内で、3園園長・主任会議を設け、運営面での重要な課題について、対応の方向性などを話し合っています。 ・ 園は、1クラスの子どもの人数が多すぎて、一人ひとりの子どもに十分には目が行き届きにくくなっていると考え、規模の縮小などの新たな仕組みを検討しています。 ・ 理事会メンバーに、外部の学識経験者、連合町内会会長などがいて、運営に関して意見交換をしています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年1月14日～1月28日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関宛に無記名で返送。
- 3、回収率 52.4%（84枚配付、44枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...7人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...9人、3歳児クラス...5人、
4歳児クラス...7人、5歳児クラス...6人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの概要

- 【問1】**保育園の基本理念や基本方針**は、「よく知っている」「まあ知っている」という回答が95%です。そのうち、93%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と回答しています。“共育て共育ち”の理念に賛同の声が多数あります。
- 【問2】**入園時の状況**は、「見学の受け入れ」「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」「お子さんの様子や生育歴などを聞く対応」「園での1日の過ごし方の説明」は、90%以上の満足度(*)ですが、「園の目標や方針の説明」「費用やきまりに関する説明」は、約80%の満足度です。“見学のときの対応は良かった”という声がある一方で、“父母会活動の説明が不足”との意見があります。
- (*)数値は「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合わせたもの（以下同様）
- 【問3】**年間の計画**は、70～75%の満足度です。“イベントや行事が多すぎる”という意見もあります。
- 【問4】**日常の保育内容の遊び**では、全ての項目で満足度が非常に高く、特に「クラスの活動や遊び」「外遊びを十分にしているか」「おもちゃや教材」「遊びを通じた子どもの健康づくりへの取り組み」の4項目は100%の満足度です。
- 生活**も満足度は非常に高く、「給食の献立内容」「昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか」「子どもの体調への気配り」の3項目は100%の満足度です。
- 【問5】**快適さや安全対策**は、「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」について約95%の満足度ですが、「施設設備」「外部からの不審者侵入に対する備え」は70～75%の満足度です。“園舎・園庭が狭い”“園入口の扉などロックされているが完全ではない”という意見があります。
- 【問6】**園と保護者との連携・交流**は、「送り迎えの際の子どもの様子に対する説明」が約85%、「園の行事の開催日や時間帯への配慮」が約90%、その他の5項目は95%以上の満足度です。
- 【問7】**職員の対応**は全ての項目で満足度が高く、特に「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」「アレルギーのある子どもや障がいのある子どもへの配慮」の3項目は100%の満足度です。
- 【問8】**総合的な評価**は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると97.7%となっています。
- 【問9】**園への要望など（自由意見欄）**では、“保育への取り組みは素晴らしい”“職員の学ぶ意欲が高い”という声がある一方で、“行事が多いのは良いが、親の負担も大き過ぎる”という意見があります。

まとめ

保育理念や目標に対しほとんどの父母が共感を示し、それに沿った子どもたちへの保育内容（「遊び」や「生活」）に満足しています。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

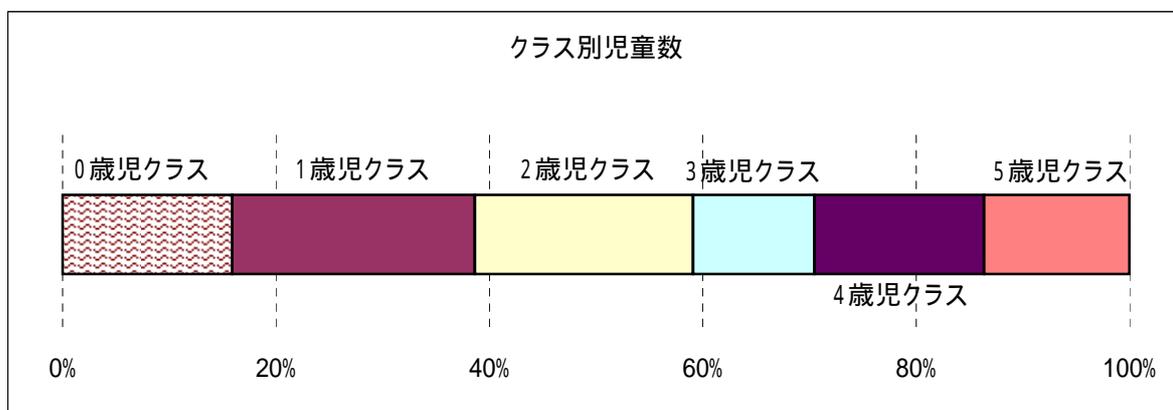
実施期間： 2008年 1月14日～1月28日

回収率： 52.4% （回収44枚 / 配布84枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
44	7	10	9	5	7	6	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



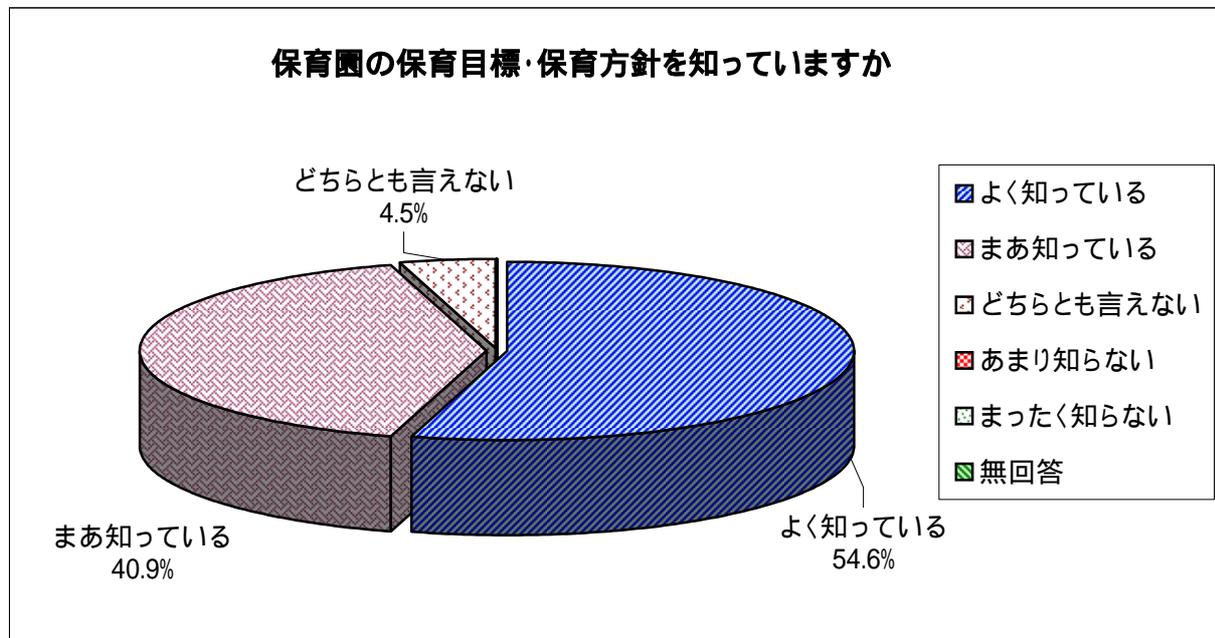
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	54.5	40.9	4.5	0.0	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

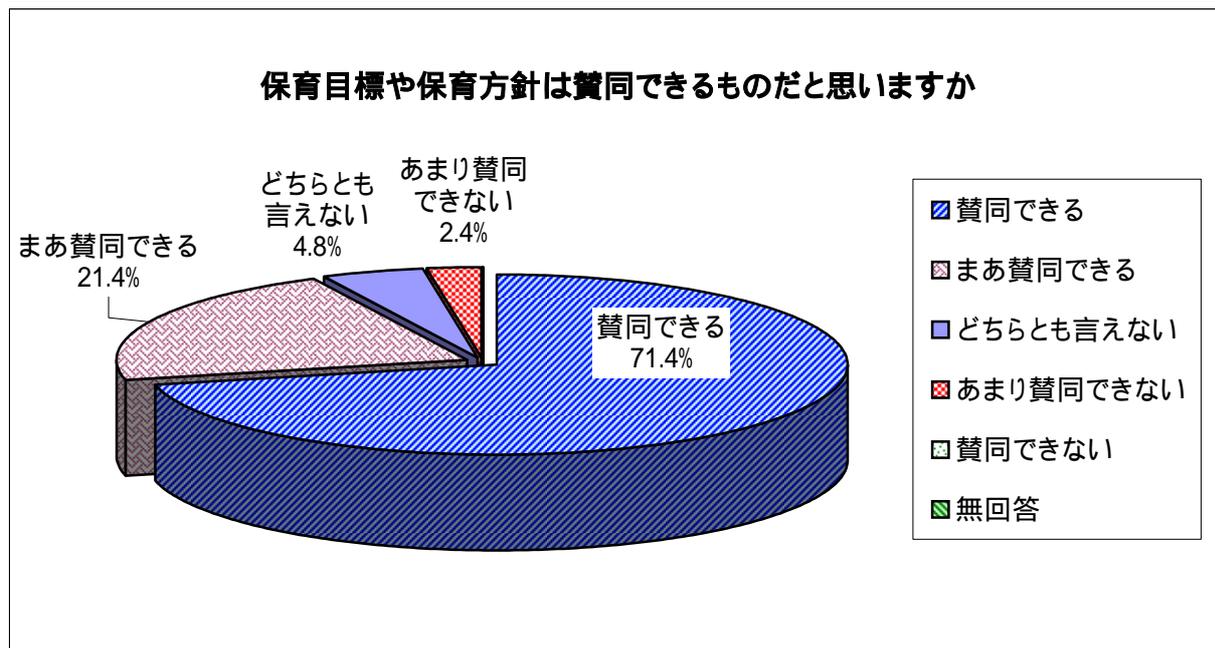


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	71.4	21.4	4.8	2.4	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

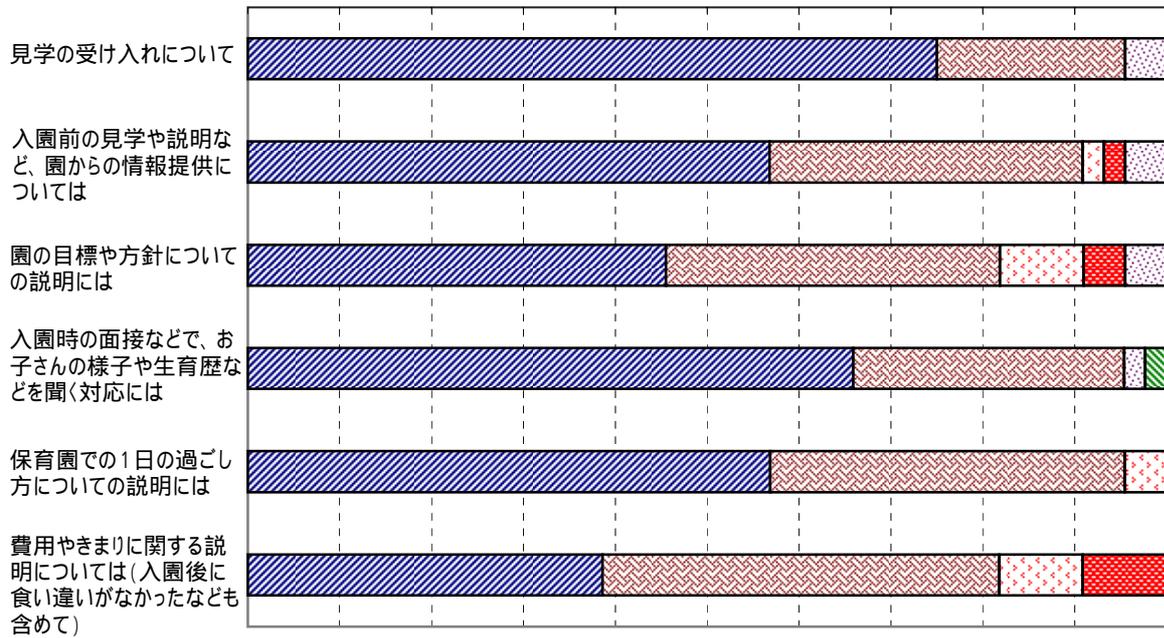
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	75.0	20.5	0.0	0.0	4.5	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	56.8	34.1	2.3	2.3	4.5	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	45.5	36.4	9.1	4.5	4.5	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	65.9	29.5	0.0	0.0	2.3	2.3	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56.8	38.6	4.5	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	38.6	43.2	9.1	9.1	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

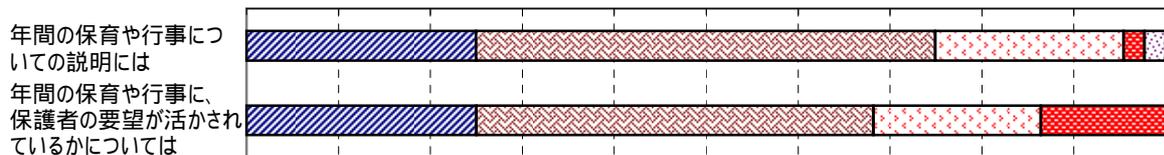
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	25.0	50.0	20.5	2.3	2.3	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.0	43.2	18.2	13.6	0.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問4 日常の保育内容について

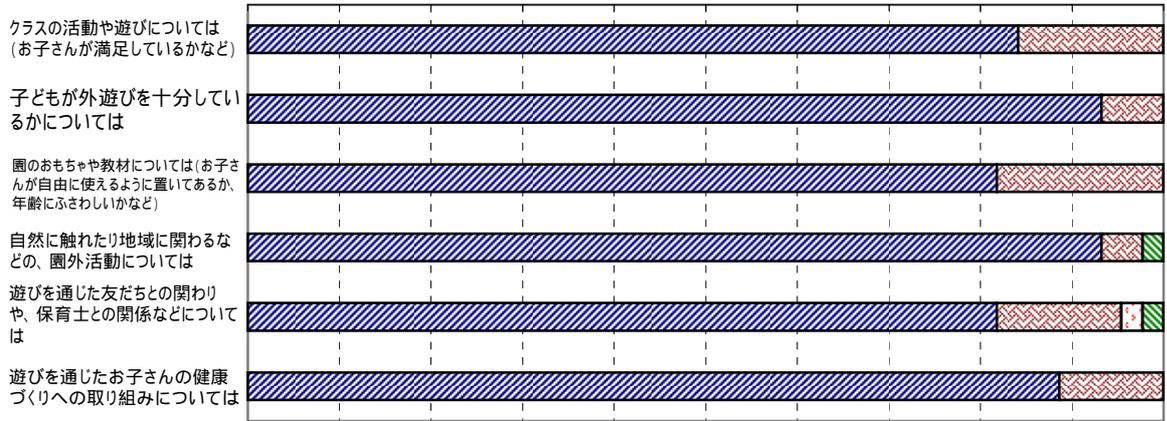
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	84.1	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	93.2	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	93.2	4.5	0.0	0.0	0.0	2.3	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	81.8	13.6	2.3	0.0	0.0	2.3	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	88.6	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



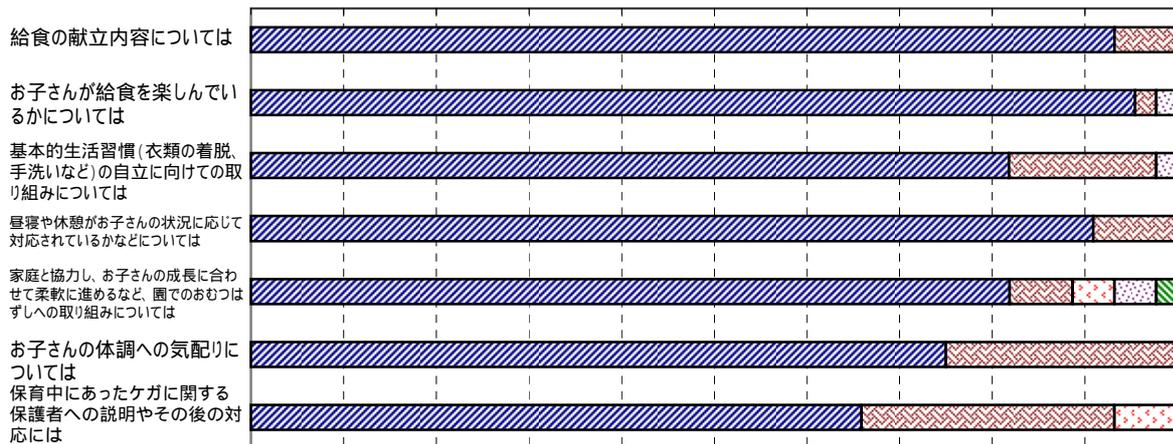
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	93.2	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	95.5	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	81.8	15.9	0.0	0.0	2.3	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	81.8	6.8	4.5	0.0	4.5	2.3	100
お子さんの体調への気配りについては	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	65.9	27.3	6.8	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



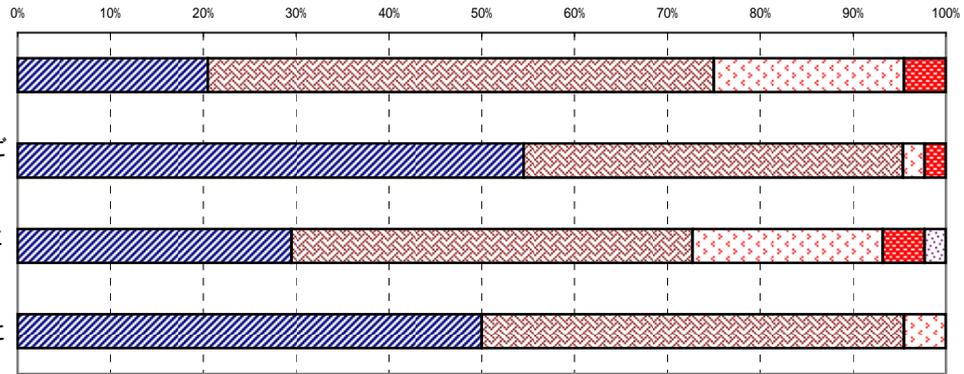
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	20.5	54.5	20.5	4.5	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	54.5	40.9	2.3	2.3	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	29.5	43.2	20.5	4.5	2.3	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	50.0	45.5	4.5	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



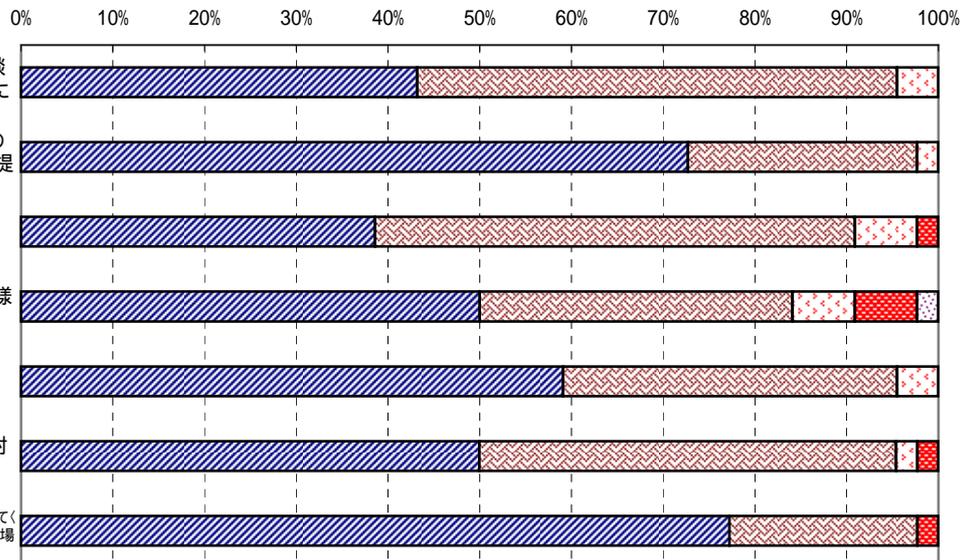
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	43.2	52.3	4.5	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	72.7	25.0	2.3	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	38.6	52.3	6.8	2.3	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	50.0	34.1	6.8	6.8	2.3	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	59.1	36.4	4.5	0.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	50.0	45.5	2.3	2.3	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	77.3	20.5	0.0	2.3	0.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

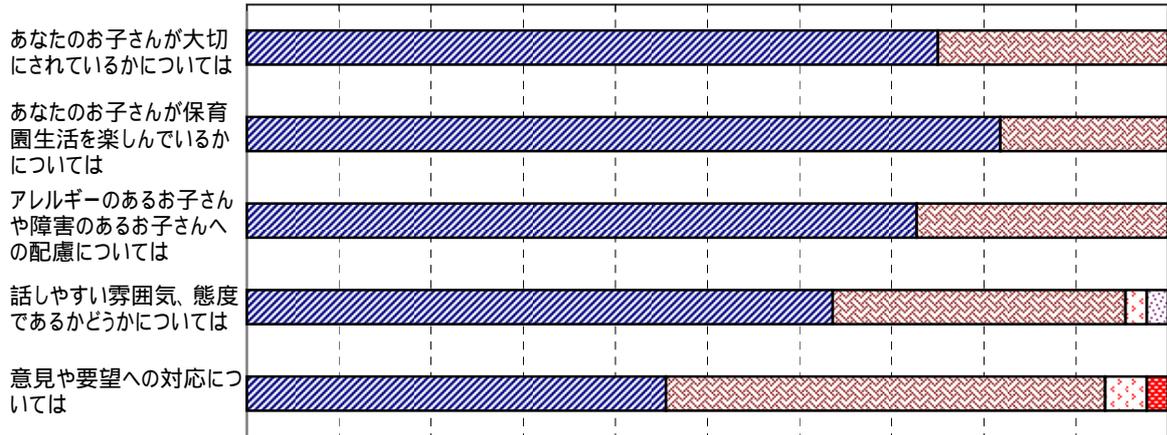
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	63.6	31.8	2.3	0.0	2.3	0.0	100
意見や要望への対応については	45.5	47.7	4.5	2.3	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

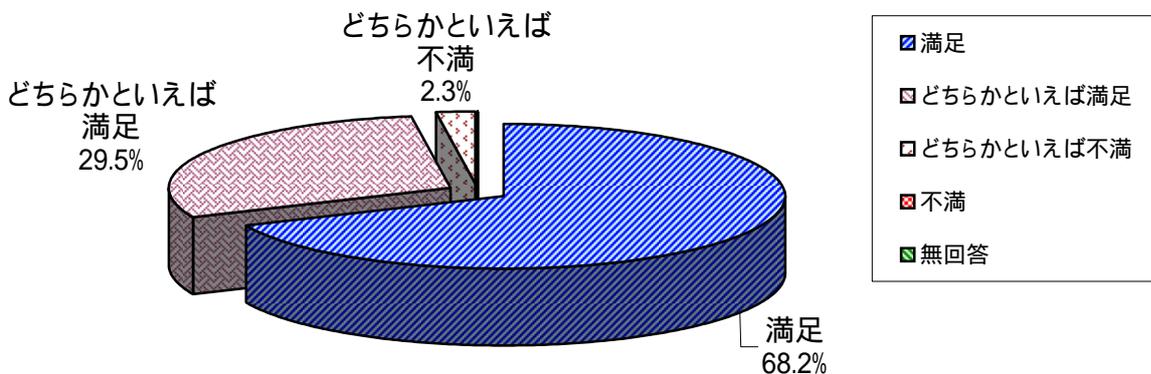


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	68.2	29.5	2.3	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 3月19日（水）9：10～12：30 3月21日（金）9：10～12：30
観察中、年長の園児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

この日は、他のクラスは散歩に出かけたので、園庭を占有して思いっきり遊んでいました。砂場では4、5人の子どもが、保育者の作った砂山を壊したり、カップに砂を入れたりしていました。子どもたちは他の子どものしていることをまねたりしますが、主に1人遊びです。また、斜面を利用した階段を上り下りしたり、丸太をよじ登ったり滑り板で滑り降りたりする子どもが3～4人いて、斜面の上と下には保育者がついて、見守っていました。40～50分後、遊びに集中できなくなってきた子どもから順に部屋に入り、オムツを替えてもらいました。

食事は、2グループに別れ、先に部屋に入ったグループから始まります。テーブル付きのいすを使用する子どもが2人います。保育者はまず1つのおかずを盛った皿を渡し、それを食べ終わると次のおかずの皿を渡します。先に食事を始めた子どもたちの中には、食事が終わらないうちにウトウトする子どもも出てきました。何とか食べ終えて、ベッドサークルに連れて行ってもらうと、すぐに眠ってしまいました。サークルの中が2～3人になると、保育者が1人付き添いました。後から入ったグループは月齢の高い子どもたちのようで、スプーンを持ってゆっくり食事をし、保育者が「ごちそうさまでした」と言うと、「タ！」と応えていました。

その子どもたちは布団を敷いた畳スペースで、まだまだ遊びたげに、ふざけたり重なり合ったりしていましたが、そのうちに2人が布張りの箱を太鼓に見立て、向かい合って手で叩き始めました。「幼児の太鼓打ちを見ているので、まねが上手だ」ということでしたが、ポーズをとり、「ヤ～！」と叩き始める様は堂にいらしています。もう1人がさらに加わり、「ターターター！」「ヨー！」と掛け声をかけながら、昼寝前のひと時を楽しんでいました。

1歳児クラス

観察日は雨だったため、保育室内で、小麦粉粘土や巧技台（室内アスレチック）で遊びました。粘土を顔につけたりつけられたり、丸めたりしていましたが、保育者がままごとに発展するように働きかけていました。粘土で遊ぶ子どもが少なくなった頃、子どもたちをテラスの「お話劇場」に誘います。紙芝居です。テラスと部屋を行き来して落ち着かない子どもたちもいますが、その間に、保育者が部屋にさまざまな巧技台をセットしました。遊びの中で、子ども同士で、引っ張り合い・つかみ合いや、おもちゃの取り合いなどが起こります。保育者は言葉で言うように促したり、理由を聞いたりしますが、手が出ると、すぐに引き離し、その後に言い分を聞いていました。

遊びの後、10時半ごろからトイレと着替えです。オムツを換えてもらう子もいれば、おまるに座ってみる子ども、トイレに行く子どももいます。食事の準備ができるまでの間、着替えの終わった子どもたちに、保育者はシャボン玉をして見せたり、玄関の絵本コーナーや熱帯魚を見に連れて行ったりしていました。

食事のときは、部屋をついたで区切って、落ち着いた雰囲気になるようにして、テーブルを並べます。ガラス1枚を隔てて隣り合う給食室から、調理担当職員が顔を出して「今日のぬか漬はキュウリだからね」と言うと、子どもたちは「ヤッター！」と喜びます。保育者はエプロンと三角巾をつけて食事を配ります。子どもたちは自分でエプロンをつけ、配られた順に「いただきます」をし、スプーンで食べ始めます。1つのお皿が終わると「ピカピカ！」と自慢げに見せます。最後にお茶を飲んで、終わった子どもからテラスに行きます。なかなか終わらない子どもは、おかずやご飯の量を減らしてもらっていました。

2歳児クラス

部屋の一部に畳が2枚敷いてあります。ここで朝の小さい集会をしました。お休みの子どもをみんなで確認し、保育者がお話と絵本「おおかみと7ひきのこやぎ」の読み聞かせをしました。その間に、部屋は物入れで2つに区切られ、それぞれにテーブルが2つずつセットされました。雨なので部屋で絵を描きます。4種類の色の画用紙が、自由に選べるように準備されています。一人ひとり自分のクレヨンを持っていて、好きな色の画用紙を選んで描き始めます。保育者はそれぞれのテーブルに別れて座り、見守ります。特に手伝うことはしません。子どもたちは、お父さんやお母さんの顔、魚、月、動物などさまざまな絵を描いています。描き終わると、保育者のところに持っていき、新しい画用紙を持って来て、また描きます。多い子どもは5~6枚描いていました。20~30分たって、描き終わった子どものために、保育者が絵本や積み木、ジグソーパズルを持ってくると、それぞれ思い思いの遊びに熱中していました。

11時近くになると、保育者がみんなを畳の所に誘い、紙芝居をします。まだ積み木などを続けていて来ない子どももいますが、強制されることはありません。その後全員がトイレに行き、食事になりました。はしを使う子ども、スプーンを使う子ども、はしとスプーン両方を使う子どもとさまざまです。食べ終わった子どもはパジャマに着替えます。食べるのが遅い子どももいますが、着替えは仕切りの向こう側やテラスでしているので、食事の場所とは分離されています。全員の着替えが終わると、集まって絵本を読んでもらい、終わると一人ひとり絵本にタッチして、足を保育者にふいてもらって布団に入りました。

幼児(3・4・5歳児)クラス合同の朝の集会

幼児クラスは、毎朝一緒にグランドピアノのある4歳児の部屋で集会をしています。保育者も子どももピンと背筋を立てて、ピアノ伴奏で「ぞうれっしゃよはしれ」など2~3曲を元気よく歌い、その後、5歳児一人ひとりの「卒園のうた」を、2曲ぐらい全員で歌います。何部構成かと思わせる曲や、手の振りが付いた曲もあります。かなり長い歌を3歳児もよく覚えていて、メリハリをつけて心をこめて歌います。

次は、歌いながら飛んだり跳ねたりして踊る曲「へのかっぱ」が流れ、踊り終わると「もう1回!」「アンコール!」の声がどこからともなく起こり、盛り上がります。何回か踊り、十分に体を動かしてから、各クラスでの保育に移ります。

集会の勢いにうまく乗れない小さい子どもがいると、保育者が手をつないだり、声をかけて誘ったりしていました。

3歳児クラス

9時40分頃に集会が終わると、まず3歳児から部屋に戻り、トイレに行きます。保育者が1人、トイレの前につきます。この日は散歩に出かけました。それぞれ自分で準備をして、門の外に集まり、保育者が人数を確認し、2人ずつ手をつないで出発します。和気あいあいとした雰囲気、会話も飛び交います。「子どもの次は大人だよ」「大人の次は死んじゃうんだよ」などという会話も聞こえました。道中、近くの福祉施設の利用者と出会うと元気にあいさつし、道行く人とも顔見知りが多く、笑顔であいさつを交わします。目的地の公園では、遊具で遊ぶグループ、鬼ごっこのグループ、木登りや草摘み、木陰で遊ぶグループと、自然に3つのグループに分かれて遊んでいました。子どもたちは自分で考えた遊びに集中し、保育者はそれを見守っていました。最後に保育者が鬼になってみんなが追いかけて、まとまったところで人数確認をし、帰路につきました。途中、信号機を見張る係でもめ事が起こりましたが(係になれなかった子どもが不満)、自然と仲直りをしました。

園に戻ると子どもたちは全員、服を全部取り替え、トイレ、うがい、手洗いとなります。保育者が1人洗面台についていました。食事当番はエプロンをつけ、保育者のよそったおかずをテーブルに配ります。子どもたちは自分のはしとナプキンをセットします。初めから特定のおかずを減らしてもらう子どももいますが、残食はほとんどありませんでした。食べ終わった子どもは保育者に手伝ってもらったりしながら、テラスでパジャマに着替えます。歯磨きは、時に保育者が「ちゃん、歯磨き行った?」と声をかけますが、ほとんどの子どもは自主的にやっていました。

4 歳児クラス

この日は室内で「魔法のクレヨン」をすることになりました。保育者がまずやって見せます。はじめに幅広く虹のように何色かの色を塗り、その上を青で塗りつぶし、その上からようじで絵を描くと、不思議な色が出てくる、というものです。「自由遊びの時間にやっている子どもたちがいて、みんなが見てはいるが、クラス全体でやるのは初めてだ」ということでした。保育者は子どもたちの間をまわって、手順を理解していない子どもには、「 にしようよ」と声をかけますが、それでも単に自分の好きな絵を描いている子どもには、それ以上声はかけません。描くのがゆっくりとした子どもには声をかけたり、用紙を半分に切ってあげたりしていました。出来上がった作品は次々に壁に貼られていきます。終わった子どもは園庭に行きまです。終わらない子どもたちは、外へ行く子どものことは全く気にせず、おしゃべりしながら、楽しそうにのんびり描き続けていました。

園庭では小グループでまとまって遊んでいました。アスレチックの家に砂場セットを持ち込んでままごとをしているグループ、雨水のたまった砂場シートからシャベルで水をかきだしてバケツに入れ、排水溝に運ぶグループ、斜面の滑り板や丸太を並べた土手に挑戦するグループなどです。11 時半ごろに保育者が静かな声で「ごはんだよー」と声をかけると、片付け始める子どもたちもいれば、気にせず遊び続ける子どもたちもいます。園庭の子ども的人数が減っていくと、まだ遊んでいた子どもたちは慌てて片付け、走って部屋に行きました。

5 歳児クラス

この日は散歩に出かけました。自然に 2 人ずつ手をつないで出発です。途中、駐輪場の受付のおじさんにあいさつし、電車が通れば手を振り、車掌さんや駅のホームに停車中の運転手さんが応えて手を振ってくれました。道端ではつくしを見つけて、みんなで摘みました。横断歩道を渡ってから、保育者が走り出すと、みんな駆け足で公園へ。途中で転んだ子がいると、子どもたち数人が集まって「大丈夫？」と心配していました。公園では、数人ずつに分かれて好きなことをして遊びます。ブランコ、砂場遊び、斜面で追いかけて、地面に棒で絵を描く、靴を飛ばして「あした天気になあれ！」などなど。ブランコから自分の靴を飛ばしてどこまでいくかを競うと、保育者が飛んだ靴の位置に をつけたりしていましたが、そのうちに保育者も靴飛ばしに参加していました。

11 時近くになり、保育者が「帰ろうね」と小さな声で言って数人と一緒に公園の入口に向かうと、遠くで遊んでいた子どもたちは、号令的な声かけがなくても集まってきます。園に到着すると、手足を洗い、着替えです。着替えの終わった子どもは、保育者を手伝ってテーブルをふきます。当番は、給食室から給食を持ってきて、おかずを皿によそいます。朝、お米係がセットした炊飯器のご飯は出来上がっていて、保育者がご飯とおつゆをよそいます。2 人の子どもがぬか漬けのキュウリを出して洗います。そして、当番が「どうぞ召し上がれ」と言うと、みんなが「いただきます」と応え、食事が始まります。食べ終わると、歯磨きに行く子ども、ほうきを持ってくる子どもなどがいて、床に落ちている食べ物を拾ったり、ほうきで掃いたりし、別の 3 人ぐらいがぞうきがけをします。保育者の声かけがなくても、子どもたちは自主的に行っていました。

まとめ

保育者は大きな声は出さず、また号令のような言葉がけもしません。子どもたち一人ひとりの思いを尊重し、気長に待ち、自発的に行動するようにポイントを押さえて方向付けをしていく、という園の姿勢が観察されました。例えば、0 歳児クラスが園庭で遊ぶとき、そこへ行けば危ない、という場所もあります。しかし子どもたちはほとんど行きません。保育者が子どもたちの興味をつかんで、安全な場所での遊びに自分から集中するように、さりげなく誘っているからです。集中できなくなる頃は、次のプログラムに移るようにしています。このような保育が積み重ねられ、最年長の 5 歳児クラスになると、遊びも生活(食事、トイレ、着換えなど)も、子どもたちは自主的に行い、生き生きとしています。保育者がちょっと声をかけるだけで、一日の生活がスムーズに流れ、保育者と子どもたちは信頼し合い、落ち着いた雰囲気クラスになっています。またどのクラスでも、障がいのある子どもや保育上特に配慮が必要な子どもも、ごく自然に他の子どもたちと一緒に遊んでいました。

事業者コメント

「大切にしていることを、誰にでもわかるように伝える」という具体的なことを、今回の第三者評価を受けた経験で学びました。子どもも職員も人数が多くなり、「保育の理念」を「実践」に移すときの非常にデリケートで柔軟性を要求される作業に、ただ形だけのマニュアルを置いても機能しない…。そんな悩みの解決のヒントをいくつか頂きました。

まず、7時～21時の保育時間を時差出勤で支える職員集団は、全員参加の会議の時も数名は保育に残らざるを得ません。しかし今回は自己評価のために法人内の他施設の協力も得て、全員の顔をそろえての会議ができました。お互いを改めて知り、意見を交わすことで生まれる「安心感」「信頼感」は、その後の職員集団にとっても良い影響となりました。また、ヒアリングで説明することによって、私たちのしっかりやっているところ、弱いところなども自覚でき、マニュアルの生かし方については、チェックをより具体的にすることを検討しています。

年度が変わり、新入園の家庭、子どもたちとの生活も始まりましたが、第三者評価の経験を生かして、少し自信をもって地に足をつけた歩みで、保育を作って行きたいと思います。

(主任保育士 池田 佳代子)

第三者評価を受けるにあたり、全職員で学習会をもち、その中で、保育にかかわる一つひとつのことを丁寧に確認していきました。文章で書かれた内容と私たちの日々の保育を照らし合わせることは、保育を振り返ることにつながり、また、客観的に見直す良い機会となりました。「これはこういうことだよね...」「この間こんなことがあって...」とたくさんのエピソードがあがりました。立ち止まってゆっくり考えること、職員同士が意見を交わすことで、それぞれの思いを確認し合い、次の日からの保育に活かせたと思います。

毎日表情を変えすくすくと育っていく子どもたち。その育ちを支える私たちの思いがバラバラでは子どもたちにとって良い環境とはいえないと思います。それが、今回学習会を通してそれぞれの思いを伝え合い、どの職員も子どものことを一番に考えていること、保育を支える仲間が同じ思いを抱いていること、とても心強く感じました。思いを伝え合い、大人も育ち合う私たちでありたいと思いました。

(1歳児クラス担任 藤岡 実里)

僕自身、第三者評価の学習会に参加するのは、「瀬谷」につづいて2度目になります。有難うございました。今回も日々の保育の中でたいせつにしていることを職員全員で見直しあい、再確認することができたと同時に、長時間保育の中で、職員全員で話し合いを持つことの大変さも感じました。どう相手に理解してもらえるように伝えていくのか、伝え方の見直しにも気づかされました。一同に顔を合わせることが難しいからこそ、もっとわかりやすく文章化して相手に伝えていくことを意識していきたいで

す。

それはお父さんお母さんたちとの日々のやりとりにもあることと感じました。子どもたちの姿を、保育のことを、より丁寧に伝えていくことをたいせつにしながら、これからも、子どもたちを真ん中に、保育者、お父さんお母さんと手をつなぎ、子どもたちの笑顔がいっぱいの毎日を築いていきたいと思いました。

(2歳児クラス担任 林 望)

初めての受審で緊張しました。けれど、普段通りの姿を見ていただくと思い、いつも通りにすごし、その後のヒアリングでもたくさんのことに共感していただいて、安心しましたし自信にもつながりました。もう一度振り返って、丁寧に子どもたちとの暮らしを創っていききたいと思います。また、今後悩んだり行きづまった時に、評価結果をひらいて、保育の振り返りにも活用していききたいと思いました。私にとって良い機会となりました。

(5歳児クラス担任 渡邊 真紀)

第三者評価の判断基準には「保育の中でこれを大事にしてほしい」ということが文章で書かれています。そこに、毎日の子どもたちとの生活の中での関わりを照らし合わせていくことで、添えられている「気持ち」や「たいせつにしていること」を、改めて「ことば」としてともに理解しあうことができました。また、工夫事例を出し合っていく中で、他の職員の発言に「うん、そうそう」と思うこともあり、「なるほどー、そういうやり方も良いなあ!」という発見もあり、これは全員が顔をそろえての話し合いの場があってこそであったと思います。

そして、お給食室や事務所が、子どもたちのためにこんなにも細かく気づかい、たくさんの仕事をしてくださっているということに、改めて感謝です。いつも有難うございます。

(2歳児クラス担任 新井 理恵)

自己評価票をもとに、領域の項目を一つずつ見ていくことで、普段の自分たちの保育を一つひとつ見直す意義あるものになった。特に保育計画を立てる上での配慮点や、子どもたちが快適に過ごせるような環境への配慮、個別指導計画、保育内容、健康衛生安全などの管理を細かく見直したことは、改めて保育環境を確認することにつながり、ふだんの保育を反省するものとなった。

また、親との交流・連携という点でも配慮していくことがたくさんあり、これもたいせつなことを確認できて良かったと思う。学習会をもったことで、保育者同士の意思統一でもよい機会があたえられたと思う。

たいせつな子どもたちを預かるという責任をもつためにも、数年に一度の見直しをし、より良い保育を心がけていきたい。

(1歳児クラス担任 三橋 美奈子)

第三者評価を受けて、私たちの視点では気づきにくい部分と向き合うことができたと思う。工夫が必要だと気づいた点がはっきりしたので、これからの保育をより豊かにする意識が高まった。変わり続ける社会情勢の中で、毎日成長していく子どもたち。親たちの声をしっかり受け止めて、「共育て共育ち」を育んでいきたい。

(0歳児クラス担任 池田 美鈴)

緊張して臨んだ第三者評価でしたが、子どもたちは調査員の方々を笑顔で迎え、いっしょに遊ぼうと言わんばかりに、話しかけたり背中にとびついたりぎゅっと抱きついたり、保育参加のお父さんお母さんにするように接していた姿が印象的でした。人と人の触れ合いが大好きな子どもたち。子どもたちを囲んで大人も一緒に保育園生活をたのしんでいる普段が、自然とこうした姿をもつんだなあ実感しました。

第三者評価を受けるにあたって、4日間にわたり、常勤非常勤みんなで保育園に関わること一つひとつを確認できたことは、私にとってもとても大きかったです。理解できていると思っていたことも漠然としていたことに気づいて、キーン。深めていくと躡くこともあったし、いろいろなひとの考えを聞いて学ぶこと大でした。

さまざまな方法を取り入れて、おなじ目標に向かってみんなで力を合わせていくことのたいせつさ。今回の評価をしっかり受け止めて、またみんなで考え改善していきましょう。子どもたちを取り巻く環境がいつの日も穏やかであるように頑張っていきたいと思います。

(非常勤保育士 山本 純子)

評価されることに怖さがともなった。今までやってきたことが、じっくり見られると思うと、「ほんとうにこれで良かったのかな」とか「ここでこういうことをするのに、意味があったのかな」とか考えてしまった。でも、これが改めて見直すことのきっかけになったのだ。

食事の様子を見に行くと、子どもたちとのかかわり方や、苦手のおかずを食べている子にはどういった言葉かけをしているのかなど聞かれた。おかずを多く入れすぎないようにしていることや、給食室会議で残食が多かった献立について話し合っていることを伝えた。子どもたちへの言葉かけなどもっといろいろな対応を勉強していかなばと思った。保育室ともっともっとコミュニケーションをもっておいしい給食づくりを心がけていきたい。

(給食室管理栄養士 田部 久美子)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るすることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
